

2024年8月

CWS JAPAN NEWSLETTER NO.95

いつもCWS Japanの活動に温かいご支援、
ご理解をいただき、ありがとうございます

東京事務所に 各地から集合！ チーム会議を実施

「チーム会議」では、最初に「チェックイン」
としてそれぞれから近況を話した後、業務を進
める上で全体で話し合いたい確認事項や進捗状
況・出張の報告などを行っています。

7月はじめ、CWS Japanの東京事務所に職員が
各地から集まり、チーム全体会議を実施しま
した。チーム全体会議についてご紹介しつ
つ、CWS Japanの職員が普段どんな様子でそれ
ぞれの仕事に取り組んでいるかについて、お
伝えします。

普段はそれぞれ異なる場所で働く

CWS Japanメンバー

CWS Japanはフル・リモートワーク体制(在宅
勤務)をとっており、普段は各々の拠点から仕
事をしています。

CWS Japanでは現在フルタイム職員と業務委託
メンバーの合わせて10名で業務にあたってい
ますが、約半数以上は東京以外の地域に住ん
でいます。(以前はドイツを拠点にリモートワ
ークしていた職員もいました！)

よって、東京にCWS Japanの事務所はあるもの
の、職員同士で対面で顔を合わせる機会はほ
とんどない場合が多いです。

必ず全員が参加するチーム会議で 話していること

そんなバラバラな場所で働く私たちですが、
週1回は「チーム会議」と言って、必ず全員が
出席するオンライン会議を行っています。



CWS Japan事務所。東京・西早稲田にある
日本キリスト教会館の建物内にあります！

© CWS Japan

チーム会議は全員と顔を合わせてコミュニケーションがとれる機会になっていて、チェックインの時は皆さんからそれぞれいろんな話題が出て興味深い話も多いので、何気に私はこの時間を毎週楽しみにしています。

仕事に関連する話題も多いですが、週末の時間に何をして過ごしたかという話や最近読んだ本や映画についてシェアしあうこともあります！

(一例) これまでチーム会議でシェアされた映画や読んだ本

- ・「関心領域」：ユダヤ人虐殺(ホロコースト)が起きたアウシュビッツ収容所の所長一家の様子を描いたアカデミー賞国際長編映画賞&音響賞受賞作品。

- ・「バティモン5 望まれざる者」：フランス・パリ郊外で再開発計画が進められる中、その地区に住む移民が翻弄され行政と衝突する様子を描く。

- ・「正欲」：朝井リョウ著作の同名ベストセラー小説を映画化した作品で、多様性について深く考えさせられる。

- ・「ぼくたちのことをわすれないで 一ロヒンギヤの男の子・ハールンのものがたり」：ミャンマーの少数民族ロヒンギヤの人たちが暮らす難民キャンプで体験した出来事を、ある男の子の視点から描いた絵本作品。

- ・「東大教授がおしえる さらに！やばい日本史」：歴史の教科書に紹介されている偉人たちの意外な側面や人間味を感じるエピソードが紹介されている。

- ・「君の誕生日」：2014年に韓国で起きたセウォル号沈没事故で高校生の息子を亡くした遺族やその周りの人たちの事故後の心情を描く。

それぞれが住んでいる地域の話や、海外出張先での話題など、ローカルだけでなくグローバルにもいろんな話を聞けるのがCWS Japanならではの醍醐味だと思います！

年に数回開催する対面でのチーム会議

そして、普段のリモートワーク体制と並行して、三か月に一回(四半期に一回)程のペースで、東京事務所に全員が集う機会があります！

7月某日にも、各地から東京の事務所に集合して、対面でのチーム会議を開催しました。前回は私が入職した4月初めに、同様に全員が集まって、オリエンテーションや歓迎会を兼ねて開催して下さいました。

前回と比べて、東京は猛暑日が連日続くかなり暑い気候だったのですが🥵、今回は最近新しく活動に加わったインターンやボランティアの方とも顔合わせをしながら、会議の時間を持ちました。

また、今回のチーム会議が持たれた7月は、CWS Japanとして事業年度の切り替わりの時期だったので、昨年度の事業の総括やこれから始まる今年度の事業に向けて話し合いました。

オンラインでもチーム会議の時間はありますが、対面で集まってじっくり話し合うことで、業務に必要な話について議論が深まった貴重な機会だったと思います！

そして、会議の後には都内に住む職員宅で、夏らしく屋上でBBQも楽しんだりしました。普段はこういったことができないので、とても楽しい時間でした！

今後も引き続き、こうした機会も楽しみながら、職務に励んでいきたいと思っています。

(文：プロジェクト・オフィサー 五十嵐望美)



一堂に会している貴重な写真！ ©CWS Japan

NGOのファンドレイジングは お金が集まれば良いのか？ ファンドレイジングの倫理性

こんにちは、五十嵐豪です。
私は海外での支援活動に関する普段の業務以外にも、大学の講義や市民社会のイベントなどで、さまざまなお話をする機会をいただくことが多いのですが、今年は「寄付と倫理」をテーマに話す機会がすでに複数回ありました。

NGOの重要な取り組みの一つ、 ファンドレイジング

安倍元首相の銃撃事件以降、家庭崩壊に陥るほどの「寄付」が社会問題になり、2022年末には「寄附の不当な勧誘防止等に関する法律」（いわゆる寄付新法）が成立し、近年「寄付倫理」への関心が高まっているのを感じます。

私たちの支援活動は、政府や財団などからの助成金だけでなく、私たちの活動を応援してくださっている支援者からの寄付によって支えられています。

より多くの資金があれば、より多くの人びとに、より長い期間にわたり、より広い範囲に、より多くの支援を届けることができます。ファンドレイジング(資金調達)という活動もNGOの重要な取り組みの一つです。

ファンドレイジングにおける倫理 支援者に対する説明責任

しかし、NGOのファンドレイジングは、1円でも多くのお金を集めることを目的としても良いのでしょうか。集められた金額だけに固執して、NGO本来の団体としての目的を見失ってしまつては、本末転倒です。ここに警鐘を鳴らすのが、「寄付倫理」の考えの根幹にあります。



NGOのファンドレイジングは
お金が集まれば良いのか？



寄付倫理を考える上でまず思いつくのは、資金の透明性の担保です。寄付をお預かりした際に約束した目的に沿って使用し、その活動を途中経過や成果などを適切なタイミングで報告することが含まれます。さらに、支援活動にはさまざまな経費がかかり、こうした経費は質の高い支援を適切に届ける上で必要であることを、支援者に対して説明し、理解を求めることも怠ってはなりません。

活動報告や会計報告を開示し、外部監査を受けることも、寄付をお預けいただいた支援者に対し、**団体としての説明責任**を果たすために行います。



寄付者に対する説明責任と比べると、
支援対象者に対する説明責任は軽視されがち (©Sphere)

支援対象者に対する説明責任も

冒頭で言及した寄付新法の件も含め、団体がどのように寄付を募り、寄付者に対する説明責任を果たすかという観点からの寄付倫理がある一方で、**支援対象者に対する説明責任**に関する寄付倫理があります。

支援する被災者や難民、あるいは防災活動に参加する地域住民について紹介する際には、個人のプライバシーを遵守し、同意を得ていることが必須です。

その内容も「かわいそうな対象者」ではなく「尊厳ある人間」として尊重します。たとえば「かわいそうな子ども」を紹介することで、より多くの寄付が集まったとしても、本人や保護者の同意を得ていなかったり、その内容が本人の尊厳を傷つけ、その後の健やかな成長を妨げる要因になりうるのであれば、そのようなファンドレイジングは倫理的に許されません。

NOT RECOMMENDED



可哀想な部分だけを強調し、個人の尊厳を尊重しない「マリク君を飢餓から救うためのお金を送らしましょう！」というメッセージは、悪い事例として人道支援のガイドラインで紹介されている。（©Dochas）

寄付集めは手段であり、目的ではない

寄付がなければ多くの活動は成り立ちません。寄付は支援活動の大きな原動力になります。しかし、集める金額だけに注力し、寄付集め自体が目的になってしまうと、支援団体としての本来の存在意義がなくなってしまいます。

団体として高い寄付倫理を保つためには、支援者からの厳しい目が必要です。支援いただける皆さまからのご寄付は非常にありがたいです。しかし、できればその先も、預かった寄付がどのように使われ、その活動がどのように報告されているか、関心を寄せていただけたらうれしいです。

私たちはそうした皆さまの期待に応えるべく、支援者に対する説明責任と支援対象者に対する説明責任の双方を果たしていきます。

（文：プログラム・マネージャー 五十嵐豪）

■ 五十嵐職員が登壇した、NGO2030の第30回ウェビナー「NGOのファンドレイジングはお金が集まれば良いのか？」のアーカイブ動画は、こちらからご覧いただけます。



"夏を感じる水彩画の ポストカードづくり" を開催しました！ コミュニティ・カフェ @大久保

現在CWS Japanが新大久保のルーテル教会で運営しているコミュニティ・カフェ@大久保では月2回（第1・3水曜日の午後）イベントを企画しています。8月第1水曜日は、インターン生の中臺（なかだい）さんによるアート企画を実施しました。

久しぶりのアート企画

8月7日（水）のコミュニティカフェでは、"夏を感じる水彩画のポストカードづくり"を開催しました！今回のカフェではアートでつながりを作りたいと思い、企画をしました。

アートは言語の壁や国籍、世代を越えて楽しむことができ、さらには個性を引き出す究極のコミュニケーション方法です。大人になると大体の人は子どもの時以来アートに触れる機会は少なくなるのではないのでしょうか。

久しぶりで「何を描けばいいか」「上手く描けない」という参加者の声もありましたが、絵を描く上で上手・下手、正解にこだわらずに自分の思うままに描くことの楽しさを体験していただきました。

若者からお年寄り、外国籍の方など全体で20名の参加となり、コミュニティ・カフェ@大久保らしい多種多様な作品でいっぱいになりました！



参加者が描いた作品 ©CWS Japan

留学経験を生かして

私自身、留学中に言葉の壁を感じていました。その時にアートやスポーツ、音楽などの芸術がコミュニケーションの助けになると気づきました。

自分らしさや気持ちを表現することで言葉では伝えられなかった感情を芸術で伝えられることを学び、今回のコミュニティ・カフェ@大久保で生かしたいという思いで行いました。

コミュニティ・カフェ@大久保
CWS Japan 日本福音ルーテル東京教会

夏を感じる！ 水彩画のポストカードづくり

2024年8月7日（水）
13:30-16:30

日本福音ルーテル東京教会
〈JR新大久保駅から徒歩5分〉

アイスコーヒーを飲んだり、おしゃべりしたりしながらアートを楽しみませんか？

参加費無料！
申し込み不要！

主催：コミュニティ・カフェ@大久保
問い合わせ：CWS Japan 牧
TEL: 03-6457-6840
E-mail: public@cwsjapan.jp

実際にアート企画を行って

お互いにその日初めて会ったのにもかかわらず、最後は皆さん笑顔で帰られたのが印象的でした。絵を描いている最中に、お互いの作品の良いところを探している姿や、外国の文化と日本の文化の違いを話している姿を見て、この企画をやって良かったと嬉しくなりました。

これからもアート企画をやりたいと思っていますので、ぜひご興味ある方はコミュニティ・カフェ@大久保🍷に遊びにきて下さい。
(文：インターン 中臺野乃花)



ポストカードづくりの様子 ©CWS Japan

さまざまなSNSで 情報をお届けしています

CWS Japanでは各種SNSで、日ごろから情報をお届けしています。お好きな方法で最新情報をぜひチェックしてみてください



各種SNSは
[ここをクリック](#) or
QRコード読み込み



アニメ制作スキルの フォローアップ研修 を実施 アニメ×難民支援

アニメ×難民支援事業の取り組みのひとつとして、先日インドネシアにてアニメ制作スキルのフォローアップ研修を行ってきました。この事業では、パイロット事業を2023年11月から行っており、インドネシアで第三国定住を待っている難民の方々や現地のインドネシア人で10名のチームを編成し、3度にわたる対面研修に加え、オンラインでの継続的なフォローアップやデジタル環境の整備に取り組んできました。

(アニメ×難民支援「Humanitarian Anime事業」についてはこちらから)

そして今まで部分的に以下の作品制作に関わらせていただいています。まだ部分的なので、この事業チームの名前がエンドロールには出ませんが、そんな日ももしかしたら近いかもしれません。

- ・『鳥は主を選ばない』
- ・『姫様“拷問”の時間です』
- ・『ぶっちぎり?!』

アニメ『鳥は主を選ばない』公式

シリーズ累計発行部数200万部。阿部智恵の人気ファンタジー小説「八咫鳥シリーズ」(文藝春秋)が待望のアニメ化!
www.nhk-character.com



TVアニメ『姫様“拷問”の時間です』

TVアニメ『姫様“拷問”の時間です』2024年1月よりTOKYO MX、BS11、関西テレビにて放送開始!『少年ジャンプ+』
himesama-goumon.com



『ぶっちぎり?!』公式サイト

監督・内海紘子、シリーズ構成・岸本卓、キャラクターデザイン・加々美高浩、制作・MAPPAが送る、ヤンキー×千夜一夜物語『ぶ
bucchigiri.jp



スキルコーチング中の様子 ©CWS Japan

今回の研修でフォーカスしたのは、「第2原画」と呼ばれる修正を全て反映させた最終バージョンの原画を仕上げるためのプロセスです。修正指示を正しく理解し、絵のどの部分に修正を反映させ、前後の絵と合わせるか、などをレクチャーしました。

「パラパラ漫画」でおなじみの、前後の絵と連続して見る行為は、アニメ制作現場でも重要で、一つの絵に修正を反映してもほかの絵に反映していなかったらチグハグな動画になってしまいます。その動きをスムーズに完成するために、第2原画を担当する者としての心構えなども伝えています。

これからさらにいろいろな作品制作に関わらせていただきながら、よりスキルを磨き、世界のどこに行っても日本のアニメ制作に関わっていけるように、そして国を追われていても自分で生計を立てることができるように、取り組みを続けていきます。

(文：事務局長 小美野剛)

落語と「在日外国人のメンタルヘルス」の2本立てでお届け！ 8月のコミュニティ・カフェ@大久保

コミュニティ・カフェ@大久保では、8月7日開催の水彩画ポストカード作りが続いて、今月は21日にもカフェ企画を行いました！今回はそのレポートをお届けします。

昼は多世代交流のらくごカフェ

8月21日のカフェではいつもの午後の時間帯と、月1回で開催している夜の時間帯にもカフェを開催し、2つの企画を行いました。

午後は大久保地域や百人町の自治会長を務めている流行亭 喜楽（りゅうこうていきらく）さんをお呼びして、「らくごカフェ」を開催しました！



教会のカフェスペースに設けられた高座に登壇していただきました ✨ ©CWS Japan

教会のカフェスペースに立派な高座（こうざ）が設けられ、BGMとともに着物姿で華麗に登壇していただきました。そして、百人一首の和歌である「千早振る」を題材にした見事な話芸を披露して下さいました！

若い世代にとっては今回初めて落語を聞いたという人も少なくない中、多世代交流の取り組みとなり、とても新鮮な体験でした。

夜は「在日外国人のメンタルヘルス」をテーマに

そして、夜には四谷ゆいクリニック院長の阿部 裕先生をゲストスピーカーにお迎えして、「在日外国人のメンタルヘルス・ケーススタディ」を行いました。

約20年にわたって、多言語に対応したメンタルクリニックを開いて治療を行ってきたご経験から、精神疾患を抱えた在日外国人の患者さんのこれまでの事例をご紹介していただきながら、意見交換を行いました。



悪天候かつ夜遅い時間帯にも関わらず、多くの方にお越しいただきました！ ©CWS Japan

来日してから続いていた心の不調が母国語が話せるようになったことで改善したという事例があった一方で、難民申請している方のケースでは不安定な立場によって身体的・精神的な疾患を抱えていてもすぐに必要な医療に繋げることが難しく、回復に多くの時間を要している状況が改めて共有されました。

また、ちょうどカフェが始まる前には、外では突如の激しいゲリラ豪雨に見舞われ、最寄りの電車も一時的に運転見合わせとなったため、時間より少し遅れてのスタートとなりました。

そんな悪天候の中でしたが、当日は福祉職の方を中心に多くの関心が寄せられ、お集まりいただくことができました！関心度の高いテーマだったので意見交換の時間もあっという間に過ぎ、悪天候かつ夜遅い時間帯にも関わらず大盛況に終わることができました。

今後もさまざまな立場から現場で外国人支援の活動されている方々と連携し、支援ネットワークを広げていくために、再びこのような機会を設けていけたらと思います！

9月のカフェ企画のお知らせ

8月も盛況の中、全てのプログラムを無事に終わることができましたが、今後も引き続きさまざまな企画を準備しています！

9月は防災月間ということもあり、防災をテーマにしたイベントも企画しています。今後もぜひコミュニティ・カフェ@大久保にお立ち寄りください。

(文：プロジェクト・オフィサー 五十嵐望美)

コミュニティ・カフェ@大久保
多文化・多世代共生のための大人の居場所

日時：毎月第1・3水曜日 13:00-17:00
場所：日本福音ルーテル東京教会
東京都新宿区大久保1-14-14 (JR新大久保駅から徒歩5分)

9月の予定

営業日	イベント企画
9月4日(水)	タイ・チー(太極拳)カフェ (参加費無料・事前申込不要)
9月18日(水)	都市型災害と外国人 (入場無料・事前申込不要)
夜カフェ 9月18日(水) 19:30-21:30	多文化共生×地域防災 ケーススタディ

※イベントの内容・日程は事前のアナウンスなく変更する可能性がありますのでご了承ください。

交流・相談・憩いの場として、コーヒーを飲みながら立ち寄るだけでもOK!

特定非営利活動法人CWS Japan
〒169-0051
東京都新宿区西早稲田2-3-18
日本キリスト教会館25号室

メールアドレス：
public@cwsjapan.jp
電話：
03-6457-6840

 [CWSJapan](https://www.facebook.com/CWSJapan)
 [@Japan_CWS](https://twitter.com/Japan_CWS)
 [cws_japan](https://www.instagram.com/cws_japan)